

(一社) 日本色彩学会 暮らしの色彩研究会企画・東海支部共催  
2019年5月12日(日)「見学会 世界遺産白川郷と高山の町並み散策」開催報告

2019年度見学会 世界遺産白川郷と高山の町並み散策

日時：2019年5月12日(日)

参加者：12名

夏を思わせる日差しに半袖が心地よく感じられた5月12日、見学会「世界遺産白川郷と高山の町並み散策」が開催された。今回は、今年の11月名古屋にて開催される第5回アジア色彩学会でのエクスカージョンの下見も兼ねていたため、中国の旅行者向けのバスツアーに同乗、外国のお客様の視点を意識した企画となった。

高山・白川郷とも120分の散策時間。高山ではお昼休憩も兼ねているため、12名の参加者は分散して昼食・街散策を楽しみ、後で情報交換することになった。昼食には海外の方でも食べやすく、高山らしいものを選択。朴葉みそなどの高山郷土料理、高山ラーメン、飛騨牛の串焼きやお寿司、みたらし団子、日本酒の試飲を楽しむ者も。同時に、気軽に購入できるプチプライスな高山土産探しにも夢中になった。カラフルなさるぼぼグッズ、豆菓子、草まんじゅうにお香や風呂敷など、色とりどりの写真を撮影することができた。情報収集に時間を費やしたため、古い町並みをゆっくり楽しむことができなかったのは心残りだが、日本らしい町並みと土地独自の食事やお土産を楽しめる観光地であると確認できた。

白川郷では、規模が大きく保存状態が良いとされる和田家を見学、1階には囲炉裏のある和風の室内と庭、2階には養蚕の用具が置かれ、さらにそこから少し階段を登って屋根裏を観察できた。中心地から少し外れた集落を散策した際には、田畑や何気なく置かれた用具にも目が向いた。豊かな自然環境と適合した白川郷の機能美だけでなく、人々の生活が現在でも現実に営まれ、だからこそ景観が美しく保たれていることに気づき心を打たれた。最後には城山天守閣展望台に登り、集落を一望。日本人にとってはまるで昔話の世界に入り込んだかのような懐かしさを感じる風景だが、外国の方々にはどのように映るのか興味深く思った。

今回のバスツアーを通して、改めて外国人観光客の多さを実感、同時に大勢の観光客による弊害にも思いが及んだ。白川郷からの帰り道、であい橋を渡ってすぐにある秋葉神社では、お賽銭箱に座り写真撮影をする海外からの観光客に遭遇。どのように説明すればいいものかと悩んだが、とりあえず、お賽銭を投げ入れ二礼二拍手一礼。それを見た海外観光客の方々は「Sorry. Sorry.」と理解してくれた様子だった。文化や景観を保全していくには、まずは私達日本人が日本文化を身につけたものとして体現していかななくてはならないと身が引き締まった見学会だった。

(高松 操)